

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 10 月 28 日 (2021.10.28)

【公開番号】特開 2021-45630 (P2021-45630A)

【公開日】令和 3 年 3 月 25 日 (2021.3.25)

【年通号数】公開・登録公報 2021-015

【出願番号】特願 2020-210921 (P2020-210921)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 9 月 14 日 (2021.9.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 可変表示手段と第 2 可変表示手段とにおいて可変表示を実行した後に、小当り状態に制御可能な遊技機であって、

前記小当り状態において、遊技媒体が特定領域に進入することで、遊技者にとって有利な有利状態に制御され、

前記第 1 可変表示手段における可変表示に基づいて前記小当り状態に制御されるときよりも、前記第 2 可変表示手段における可変表示に基づいて前記小当り状態に制御されるときの方が、遊技者にとって有利になりやすく、

前記第 2 可変表示手段における可変表示に基づいて制御される前記小当り状態は、第 1 小当り状態と、該第 1 小当り状態よりも遊技者にとって有利な第 2 小当り状態と、を含み

、

普通図柄の可変表示の表示結果が所定結果となったことに基づいて、閉状態から当該閉状態よりも遊技媒体が進入しやすい開状態に変化する可変手段を備え、

前記可変手段に遊技媒体が進入することで、前記第 2 可変表示手段の可変表示が実行され、

通常状態よりも前記可変手段が前記開状態になりやすい特別状態に制御可能であり、

前記特別状態における可変表示の実行回数に基づいて前記特別状態を終了させることが可能な特別状態終了手段と、をさらに備え、

前記通常状態は前記特別状態よりも遊技者にとって不利な状態であり、

前記特別状態が終了した後は、前記通常状態に移行し、

前記特別状態終了手段は、

前記特別状態における前記第 2 可変表示手段の可変表示の回数を更新し、前記特別状態における前記第 2 可変表示手段の可変表示の回数が第 1 回数となったときに、前記特別状態を終了させることが可能であり、

前記特別状態における前記第 2 可変表示手段における可変表示に基づく前記小当り状態の回数を更新し、前記特別状態における前記第 1 可変表示手段における可変表示に基づく前記小当り状態の回数を更新せず、前記第 2 可変表示手段における可変表示に基づく前記小当り状態の回数が第 2 回数となったときに、前記特別状態を終了させることが可能で

あり、

前記特別状態における前記第 1 可変表示手段及び前記第 2 可変表示手段の可変表示の合計回数を更新し、前記特別状態における前記第 1 可変表示手段及び前記第 2 可変表示手段の可変表示の合計回数が前記第 1 回数よりも多い第 3 回数となったときに、前記特別状態を終了させることが可能であり、

前記特別状態の最初の可変表示が前記第 2 可変表示手段における可変表示であった場合、該特別状態の最初の可変表示が前記第 1 可変表示手段における可変表示であった場合、のいずれの場合であっても前記可変手段に設けられた発光手段を発光させる

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

時短状態について、複数の終了条件を備えた遊技機が提案されている（例えば特許文献 1 参照）。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

【特許文献 1】特開 2 0 1 6 - 1 8 5 1 9 3 号公報

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

特許文献 1 に記載の遊技機では、有利な小当りを待ち続けて遊技をすることを可能としてしまう虞があった。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

この発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、有利な小当りを待ち続けることを防止して、遊技の公平性を担保できる遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

（ 1 ）上記目的を達成するため、本願発明に係る遊技機は、

第 1 可変表示手段と第 2 可変表示手段とにおいて可変表示を実行した後に、小当り状態に制御可能な遊技機であって、

前記小当り状態において、遊技媒体が特定領域に進入することで、遊技者にとって有利

な有利状態に制御され、

前記第 1 可変表示手段における可変表示に基づいて前記小当り状態に制御されるときよりも、前記第 2 可変表示手段における可変表示に基づいて前記小当り状態に制御されるときの方が、遊技者にとって有利になりやすく、

前記第 2 可変表示手段における可変表示に基づいて制御される前記小当り状態は、第 1 小当り状態と、該第 1 小当り状態よりも遊技者にとって有利な第 2 小当り状態と、を含み、

普通図柄の可変表示の表示結果が所定結果となったことに基づいて、閉状態から当該閉状態よりも遊技媒体が進入しやすい開状態に変化する可変手段を備え、

前記可変手段に遊技媒体が進入することで、前記第 2 可変表示手段の可変表示が実行され、

通常状態よりも前記可変手段が前記開状態になりやすい特別状態に制御可能であり、

前記特別状態における可変表示の実行回数に基づいて前記特別状態を終了させることが可能な特別状態終了手段と、をさらに備え、

前記通常状態は前記特別状態よりも遊技者にとって不利な状態であり、

前記特別状態が終了した後は、前記通常状態に移行し、

前記特別状態終了手段は、

前記特別状態における前記第 2 可変表示手段の可変表示の回数を更新し、前記特別状態における前記第 2 可変表示手段の可変表示の回数が第 1 回数となったときに、前記特別状態を終了させることが可能であり、

前記特別状態における前記第 2 可変表示手段における可変表示に基づく前記小当り状態の回数を更新し、前記特別状態における前記第 1 可変表示手段における可変表示に基づく前記小当り状態の回数を更新せず、前記第 2 可変表示手段における可変表示に基づく前記小当り状態の回数が第 2 回数となったときに、前記特別状態を終了させることが可能であり、

前記特別状態における前記第 1 可変表示手段及び前記第 2 可変表示手段の可変表示の合計回数を更新し、前記特別状態における前記第 1 可変表示手段及び前記第 2 可変表示手段の可変表示の合計回数が前記第 1 回数よりも多い第 3 回数となったときに、前記特別状態を終了させることが可能であり、

前記特別状態の最初の可変表示が前記第 2 可変表示手段における可変表示であった場合、該特別状態の最初の可変表示が前記第 1 可変表示手段における可変表示であった場合、のいずれの場合であっても前記可変手段に設けられた発光手段を発光させる（図 3 4 - 8、図 3 4 - 1 1、図 3 4 - 1 3、図 3 6 - 1 等）。

このような構成によれば、好適に特別状態へ制御することができる。